様式５（第８条）

<table>
<tr><td colspan="4">平成 29 年度　第 1 回総合教育会議議事録</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>平成 29 年 11 月　2 日
9：30～11：30</td><td>場所</td><td>市役所本庁舎 3 階会議室</td></tr>
<tr><td>出席者</td><td colspan="3">市　長：　太　田　　昇
教育委員　：　教育長　三　ツ　宗　宏
教育長職務代理者　小　谷　眞　人
委員　中　井　靖　典、井　口　利　美、
常　本　直　史
政策アドバイザー　山　本　健　慈</td></tr>
<tr><td>協議事項</td><td colspan="3">子どものやる気を引き出す学校・家庭・地域のあり方について</td></tr>
<tr><td>経過及び結果</td><td colspan="3">1　開会（総合政策部長）
おはようございます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これより総合教育会議を開催いたします。テーマ等は後ほどご説明いたします。それでは早速ですが、開会に当たりまして、市長から挨拶をお願いします。

2　市長挨拶
おはようございます。今日はお忙しい中、山本先生をはじめ、教育委員の皆様、おいでいただきありがとうございます。この総合教育会議の趣旨は市長部局、教育委員会部局と一緒になって、教育がどうあるべきか、などについて公開で議論する場を設けること。
本日は「子どものやる気を引き出すための学校・家庭・地域のあり方」をテーマに議論いただきたい。論点については事務局から説明するが、真庭の子どもの現状について、私も詳しい現状がわかっていない。今回、特に学力について考えるときに、点数面だけで考えるべきではないと思うので、子どものやる気をどう引き出すのか、という観点で議論いただければと思う。中学 3 年の全国学力状況調査の結果が出ているが、市の子どもたちの平均正答率が全国を下回っている。その原因として、色々なことがあるし、現象面だけで見るべきではないし、掘り下げる必要があると思うが、現象面で見ると、スマホの長時間使用によって家庭学習時間が少ない、短くなっている。スマホの使用は全国平均以上だが勉強時間は全国平均以下になっている。私は問題なのは、セルフコントロールができていないのではないかと思っている。自分で自分を律するというのは</td></tr>
</table>

様式５（第８条）

	難しい問題、課題だが、自分はこういうことをしたいんだ、だからそのために我慢して勉強するんだということが大事。教育現場で言われていることだが、幼児期にセルフコントロールを身に付けた子どもとそうでない子どもは、勉強だけでなく人生において変わってくるといわれている。そういうことをなかなかできていないというのが現象にあらわれていると考えると、子どもたちの将来にとって深刻な問題だと思っている。 　また、地域行事に子どもがよく参加しているのが真庭の特徴。これももう少し掘り下げる必要があると思うが、挨拶をよくするというのもとても良いことである。ありがたいことに、来年の道徳の教科書に地域の祭りとして京都の祇園祭とならんで勝山祭り・喧嘩だんじりが載ることになった。いずれにしても、学校だけでなく、家庭、地域がどうあるべきかを話し合っていただき、未来を担う子どもたちを育てていくということをしていきたいと思う。 　なお、今回の議論と少し違うが私の想いを言わせていただければ、英語教育。小学校の英語教育が始まる。色々な議論があると思うが、私は国際社会の中で堂々と生きていける、英語が通じないから堂々と生きていけないとは言わないが、やはりコミュニケーション手段としての英語は大事だと思っている。そういう意味で、田舎にいるからハンデがあるという悔しい思いをさせたくないと、自分自身の反省も含めてある。そういうことについてもどうあるべきなのかを頭に置いていただければありがたい。 　それから嬉しい話で、最近真庭の文化活動が非常に活発である。そのひとつに寺坂先生が二回目の日展で特選、沼本先生も入選された。また、日本伝統工芸展の木竹工部門で、郷原漆器の高月さんがＮＨＫ会長賞を受賞された。エスパス合唱団は東京の文化会館で東京混声合唱団と一緒にコンサートを行った。そういうことを報告しながら挨拶とさせていただくが、忌憚のない意見を出しあって意義のある会議にしたい。 3　自己紹介 教育長：5 月から教育長を拝命した。教育現場にはたくさんの課題があるのを実感している。その中で今日のテーマにも繋がってくるが、子どもたちが学ぶ場である学校について、印象なので確かな根拠はないが、基礎体力が落ちてきているのではないかと危惧しているが、元気をださなければいけないということで、次々とカンフル

	剤を打って奮い立たせながら行っているが、事業はビルドにビルドを重ねていて、業務が増える一方になっているというような状況があるのではないか。これを行政としてしっかりと考えていかないといけないというのを非常に感じている。（何ができるかはわからないが、）ゆったりと構えて子どもと向き合う、そのなかでこれは何のために行っているか、どこを目指しているか、をしっかり学校の中で議論していく、こういったことが子どものやる気を育てていくうえでも大事なのではないかと改めて感じている。 　そうした中で、二つほど考えている。一つは、「真庭の学校が家庭、地域と結んでこんな取り組みをして子どもたちをしっかり育んでいる」という誇りや自信をきちんと培っていく、それが説明できるようにしていくことが大事である。二つめは、情報化社会なのでたくさんの情報が入ってくるが、プレッシャーと感じるのではなく、「活用できるものは活用する」、という大らかな気持ちで事に向かっていく、そういう風土を培っていくことが大事だと考えている。今日の議論はとても楽しみにしている。よろしくお願いします。 常本委員：6 月から教育委員に任命された。現在、株式会社マルイで、マルイアカデミーの副校長として社員教育に携わっている。この 3 月まで、真庭高校校長として 5 年間、至道高校に 5 年間、勝山高校に 12 年間勤め、結局 22 年間真庭市に私自身を育てていただいた。現場で感じたことなどを発言できればと思う。 　真庭は地域がとても温かく、子どもが素直に育っている印象。すべての学校が地域に支えられながら子どもが成長していく環境があるように感じる。そこには大人側からのしっかりとした教育方針をもった対応も必要だと思っている。市長が言われたセルフコントロールについては、私はコミュニケーション能力のベースの部分だと思っている。自分の考えを自分の言葉で伝える、自分が思っていることを外に発信できなければ、思っているだけでなにも考えていないことと同じ。挨拶をすることは当然のことであって、そういう自分の考えが発言できる、そういう力を子どもたちが身に付けることが大事だと考えている。企業から若者を見ると、キャリア教育をやってきたが、果たしてこれまで行ってきたキャリア教育がどうだったのかな、という反省もある。今の 20 代後半から 30 代は、自分の考えを発言する、読む、聞く力が少し弱いと感じる。一方 10 代後半から 20 代前半は意外と自分の考えも発言でき、プレゼンテー

	ション能力もあるかな、と感じている。また、リカレント教育が非常に重要だと思う。人生 100 年の時代、働き方も変化している中で、リカレント教育に産学官が連携して取り組んでいく必要があると考えている。子どものやる気は、子どもだけでなく大人もあわせて色々なことにやる気を出すという、地域と一緒になってそんな取り組みができればと考えている。どうぞよろしくお願いします。 4　協議事項（市長進行） 資料説明（事務局） 市長：遠慮のない意見をいただきたい。総論的なことで、学校と地域との関係ということで、山本先生からお話しいただければ。 山本先生：おはようございます。真庭は寒いですね。東京も寒いと感じるが、真庭は一段と寒い。今日は午前中こちらで仕事した後、島根大学に行く予定。 　子どものやる気を起こさせるのは多分一番難しく、これができれば全て解決できると思うので、ここから議論するのは難しいと思うが、私の資料の説明や配布された資料を見た感想を言いたいと思う。東京で最近感じることは、あまりじっくり物事を考えないで決まっているのではないかと危惧している。そういう意味で言うと、東京から離れたところで物事をじっくり考えることができるのは地方の有利な点ではないかと思う。 　配布いただいた資料の小学校・中学校の児童・生徒数の推移をみても、覚悟をしないといけない。地方のトレンドに沿って行っていれば明るい道が開けるということでもないと思う。児童・生徒数の推移について、子どものやる気の前にというか、この地域の未来をどう考えるかということを、子どもも含め、学校や地域に住んでいる人と一緒に考えることが一番重要ではないか。どう考えても東京みたいなところで人間は育たないというのが実感。情報を処理するような経験はたくさんできるだろうが、人間としての基本的な経験をする条件は非常に欠落しているので、その点ではしっかり地域の未来を考えてもらうのが大切。これだけ学校の規模が小さいと、子どもを一人ひとり丁寧にみることができる。これが一番重要なことで、学力テストの話があったが、これは数字でしかものを見ることができない。それを平均値で見ているので、学力テストでしか人間

	を見れなくなると、子どもはやる気を失うと思う。学力テストはある種の情報処理能力なので、感情、心の豊さは反映できない。人間としてのトータルな姿は数字からは見えてこない。しかし、子どもの数が少ないと、学力や普段の生活など、子どもを丁寧に見られる条件が整っている。子どもを真ん中に、その子どもの現在と未来に向けて人生を見通すことをしていくことができる条件があるので、そこをぜひ生かしていただきたい。 　私の資料を見ていただきたい。一つは、明日、島根大学で高校生、大学生に向けて講演するために作ったもの。地域の連携ということで、本当の意味での地域は、色々な人がいる。そのなかで自分は何をもって幸せだと考えられるかを意識し考えることが、やる気を引きだす秘訣だと思っている。私はこれが幸せだということをとことん考えてほしいと、学長をしていた和歌山大学の入学式では、繰り返し伝えてきた。つまり、いい成績をとろう、いい大学に入ろうという目的はもっているが、果たしてそれで自分が幸せになるかどうかというと、全く考えることができていない。子どもたちには将来どうなっているか、自分、家族、地域、世界をどう考えながら社会にコミットしていくのが幸せなのかを考えられることを繰り返し伝える必要があると思っている。 　二つめの資料は、ＡＩの研究をしている新井先生のインタビュー記事で、ロボットが社会に何をもたらすか。雇用などは将来半分の職種がロボットに代替えされるといわれている。また、ロボットが東京大学に入学できるかを実験している。目的はロボットに東大に合格させるのではなく、ロボットは何ができないかを証明するために実験を行った。たくさんの経験をもって処理することはできるが、経験のない部分は処理することができない。また、ロボットは東京大学に合格することはできなかった。東京大学は小論文が試験に出るので有名だが、ロボットは論文を結構書くことができる。ロボットと受験生の答案を比べると、受験生の７割程度はロボットと同じくらいだといわれている。どういうことかというと、わかっていないのに東大の受験生も合格している。つまり、意味がわからないことを日本の教育はアウトプットするような訓練はしているけれども、本当の意味でわかっていないということが実証された。その結果、人間にしかできないことは、起こっていることや言葉の意味を考えることだと新井先生は結論付けている。 　皆さん方が差し迫って直面している現実から遠いものに見える

	かもしれないが、そういうことの中で学校教育改革があることを考えてもらう必要があると思う。 市長：山本先生が言われたことや新井さんの記事について、やはり基礎学力がないとこういうことは言えないと思う。ものを考える力がないとできないのではないか。例えば歴史を勉強した人間なら、かつてのイギリスの近代資本主義の機械化など歴史を勉強した人間ならばそういうことがわかるが、それは基礎学力として歴史を勉強しているから。ところが今の中学校卒業生に同じことを聞いてもちゃんと理解している子はほとんどいないと思う。私は基礎学力、ものを考える力は重視したいと思うが。 山本先生：基礎学力が必要なのはもちろんだが、今の教育はあまりにスピードが速い。内容が詰め込まれていて、肝心なことを楽しく面白く教えられるような条件でないように感じる。伸びやかに学んでいるようには見えない。親も脅迫的に圧力を加えれば、勉強することは面白く感じることはできないと思う。それに耐えられる人間以外脱落してしまうようになる。地域としては、近所の子どもが毎日楽しく暮らしているかが重要で、ストレスがいじめになったりしていると思う。学力テストなどの数字よりも前に、子どもたちが毎日どのような気持ちで学校で暮らしているかということに関心をもたないと、子どものやる気を引き出すことはできない。 教育長：（山本先生のおっしゃられるとおりだと思う。）いわゆる総合的な学習の時間で地域の人と繋がり、人として大切な力を培っていくことと、教科学習を大事にして基礎学力を高めていくことは矛盾していないと考えている。特に教科というのは面白い。例えば長さの勉強にしても、最初は直接比べますよね（直接比較）。そして遠くにあるものは何かを媒介にして比べる（間接比較）。その媒介したもの、たとえば紐だったら紐の長さを表すための単位が生まれる（任意単位）。でもそれでは世界共通の長さが比べられない、だから「cm」などの普遍単位が生まれていく。そのようなことを子どもたちが追体験しながら学んでいく。そうすると発見があるし、ものの考え方を、教科の中でしっかり学んでいくべきだと思う。 　一番危惧するのは、大事な部分が、たくさん教えるがために圧縮されて、結果だけが知識として伝えられることは非常によくないこ

様式５（第８条）

	とだと思っている。教える内容は多くなっているのに教科書の厚さはあまり変わっていない。途中の行程を省いてしまっていることもあると思う。 山本先生：世界の教育システムは日本のような一斉授業ではなく、個別の学びを支援している。子どもでも人生の課題を持っていたり、興味関心も人により違うので、丁寧にその筋道を教えていくということを行っている。だから個性も発達するし、自分の目標もはっきりする。児童・生徒の数が少ないのは大変なことだが、丁寧に一人ひとりの個性に従って学びを作ってやることができるのではないか。すると、かなり図抜けた学力を発揮する子どももどんどんでてくると思う。 教育委員：今企業で仕事をしていて感じることは、大学３年になると就職活動を始める人も多い。これで大学教育がしっかりできているのか疑問。リベラルアーツということが外国では行われているし、日本では昔はしっかりと大学１、２年で基礎的な勉強を行ったうえで専門的な技術を身に付けるという、しっかり考える時期だったような気がするが、最近は早くなりゆっくり考えることができないのではないか。 　私が高校現場にいて感じたのは、小学校～高校までが繋がる。言葉だけでなく、例えば教科。教員が子どもたちに力をつけようと思うなら、小学校、中学、高校で教員がどういう風に教えているか、連携を持って取り組んでいかないと、現状を打破できないのではないか。例えばＡＬＴの研修をしても、小中学校の先生の参加者はほとんどいない。小学校教育で英語が始まるとのことだが、日本語（母語）がしっかり身についていないとできないのではないか。教員が力をつけていく必要がある。 　また、学校は地域、行政と繋がることや、企業をもっと利用すべきだと思う。高校の教員は、大学、その先の子どもの将来を考えている。小学校、中学校の先生も同じ見方をしていただけたらありがたい。 教育委員：学校訪問で様子を聞いたりしているが、昔と違うのは、先生の交流など、小学校、中学校の連携がかなり進んでいると感じる。だが、授業は昔の教え方（教科書と、黒板にまとめを書いて子

	どもがそれをノートに写す）をしている人も多い。授業形態等を変え、現代のニーズに合った教え方をしていかないと、子どものやる気も起きないのではないかと感じる。教員の研修に力を入れ、考え方も含め変えていく必要があるのかなと思う。 市長：山本先生の話と繋がるところがあるが、1900 年代は世界的に資本主義国で、大量生産のために一定の知識と能力が身に付いた人間を大量に作っていかなければならない、それが近代教育の始まりだった。もともとは私塾など。しかし今は、大量生産、大量消費に合った経済システムのなかで労働者を作り出すという時代ではなくなった。それにどう合わせていくか。まさに個性であり、物を考える力などに関係してくると思う。 山本先生：学力テストと合わせ家庭状況調査もされているが、地域や家庭の状況も影響していると思うが、真庭市では相関関係などは分析しているか。 事務局：真庭市は小規模な学校が多く、個人の点数がそのまま分かってしまうことがあるなど統計上の問題があるため、地域や家庭の状況との相関関係について分析はしていないが、一概にはそうは言えないと思われる。 市長：都市部とはかなり違うと思う。地域の経済水準を見るのに良いのは、個人市民税の数字を人口で割ること。真庭では、例えば月田地区は素晴らしい文化力を感じる。木材で繁栄したときに色々な教育を受けてきたのではないか。全てがそうではないが、文化力と経済力は関係していると思われる。そういう点で、日本全体の農山村部経済の衰退に比例して文化力などは落ちていると感じる。 教育長：個々にはあるが、この間の学力テストの結果を見て、平均点を比べれば格差があるという状況にはない。ただ、人数が少ないので、何とも言えないが。 市長：統計を取ることの難しさ。数字が独り歩きすると怖い。 教育委員：学力テストの結果が示されているが、真庭は小さい学校

様式５（第８条）

	が多い。少人数の生徒に教えている場合、一から十まで教えることができるため、生徒は考える力があまり養われないこともあるのではないかと感じることもある。また、家庭学習が少ないと感じる。学校に頼るだけでなく、家庭でも勉強する習慣を身に付けなければいけない。 教育委員：本日のテーマはとても難しいし、私も含め子育て中の母親が一番悩んでいることだと思う。山本先生の意見をはじめ、とても勉強になる。 　最近感じることは、くたびれている大人、子どもが多い気がする。そのため家庭学習をする意欲が湧かないのが現状ではないか。子どもが自分で学ばなければならないと自発的な思いになるためには、自分やこのまちの将来など先のことを見通して、今は何をすべきか、などを考えることがやる気に繋がるのではないか。先生方は学習指導要領など責任を全うすることに一生懸命だが、もう少し生活に密着した内容で教えていただければ、子どもにとってもっと身近な教育になっていくのではないか。学力テストそのものは悪いことではなく、それをいかに目安、指標としてとらえるかによると思う。テストに重きを置くのではなく、競争力もひとつのやる気に繋がると思う。 　新井先生の資料にもあったが、文章を読んで分かるまで考えるというのは最近端折りがちな時代だと思うが、今後ＡＩを含めたことを考えていくうえでは大事なことだと思った。 　私は子ども園で働いているが、未就学児（1 歳頃）の子どもは皆周りのことに対し耳を澄まし、じっと見て、意味を考えていると思う。この行動が人間にとって一番大切なことが改めてわかった。 教育長：本日の協議内容と直接は繋がらないかもしれないが、結局ＡＩは進んでいくと思う。ＡＩが得意なことは、記憶し、正しく再生することなど。人間の能力としてももちろん大事だが、人を育んでいくことを考えたときに、世の中はやはり答えがないことが圧倒的に多いと思うので、そういうことを考え、自分たちが納得できる答えを生み出し、人と繋がり、解決する力を培っていくことが大切だと思う。 　真庭市総合教育大綱では、郷育を柱にしている。子どもたちが地域で体験学習すると、大抵の場合、自分たちの地域が素晴らしいね、

様式５（第８条）

	こんな良いところがあるね、と勉強する。だが、それで終わってはいけない。山本先生が言われたように、学齢期に応じてだが、こんなに素晴らしいところなのに、人の数がどんどん減っていく。なぜだろうと考え、議論しながら地域課題に取り組んでいく。その中で自分はどんな役割があるかということを学習のなかで進めていくことができれば将来に繋がっていくと思う。 教育委員：学校現場にいた頃は、地域を題材にした総合的な学習の時間に力を入れていた。生徒が地域に出て学習する、体験活動をする。そして、課題を発見し、解決に向けてチャレンジし、失敗する。なぜ失敗したかを検証して次につなげることが大切。また、ＥＳＤの世界大会が岡山であったが、生徒を 160 人ほど連れて行った。そこではボディランゲージで伝わったが、やはり英語の勉強が必要だと生徒は皆言っていた。そこはやはり基礎学力が必要。基礎学力をつけるためには弱点などを分析し、底上げをしていく必要がある。 山本先生：私も保育園を経営しているが、6 歳までの子どもは本当に個性的で、興味の持ち方が全く違う。それが残念ながら成長するにつれて型にはまってしまう。人口が減るのは重要な問題だが、ひとりひとりの個性を生かし、全ての力が発揮できる社会をつくる必要があるのではないか。 教育委員：意見募集でいただいた意見を読ませていただいて、非常にそのとおりだと感じた。地域の人も含め、子どもの悪い点には気づきやすいが、子どもたちの良い行動を評価（褒める）して、本人や地域の人たちに伝えてることが、子どもたちのやる気に繋がってくるのではないかと思う。 市長：褒めること、自信を持つこと、やる気を出すことは非常に繋がっていると思う。 教育長：やる気を起こすのは非常に大切だが、ベースにあるのは学校や家庭、地域で、子どもたちに小さくても成功体験を積み重ねてあげること。そうするなかで、自信に繋がってくる。あわせて、人間は飽きやすいので、学ぶことを生活の習慣にし、無意識に学ぶ、学ばないと気持ち悪いというような習慣作りを続けていくことも

	必要だと感じている。 教育委員：地域行事に参加する子どもたちが多いのはいい傾向だと思う。私の地域も祭りなど、大人が本気で行うので、子どもも肌で感じて一緒にやっているのだと思う。 教育委員：真庭は環境が素晴らしいと思うが、やる気を起こさせるような刺激が少ないのではないか。 市長：災害が少ない、高校も定員割れしていて、競争率が低いなど、自分自身がやる気を出していく条件が割と弱いと感じる。そういう中でいかにやる気を引き出していくか。真の豊かさとはなにか。面白さ、楽しさ、厳しさがないと人間は成長しないと思う。 山本先生：ぼんやり暮らしてて幸せなのが一番いいのかもしれない。様々な人がいていい。一斉教育が怖いのは、皆同じ目標に向かって走っていくところ。面白いことだと耐えられるが、面白いと感じることは人によって違う。また、ずっと真庭に留まる人もいれば、世界の課題を見つけて貢献したいという人や、そういう人の中から真庭に帰る人もいると思う。色々な人生を想定して若者と付き合い育てていく。その選択をリスペクトしていくような形が一番住みやすいまちになる気がしている。 教育委員：真庭の文化、芸術、スポーツなどのニュースがいつも出ていると感じる。そういう意味ではそれらの意識がさらに上がってきているのかな、と津山市に住んでいて羨ましく感じている。最近の子どもたちは自分のこと、親のことを考えている子が多いと感じる。また、教員に求められる力は、子どもたちを繋ぐ力。繋げないと意見交換ができない。ファシリテーション能力、マネジメント能力が必要となってきている。 5　閉会（教育長） 　子どものやる気を引き出すというテーマについて、本当に大きなテーマ、これができたら課題は越えていけるということではあるが、様々な視点からたくさんの意見をいただいた。今後教育委員会でもこのことを引き継ぎ、議論して真庭の子どもたちが自分の将来

様式５（第８条）

	を見据えて元気に育っていけるように頑張っていきたい。ありがとうございました。
特記事項	